

小学校 低学年の部

最優秀賞

ひいおばあちゃん目のかわりに

水戸市立笠原小学校 2年 菅谷 乙羽

わたしには、ひいおばあちゃんがあります。年は、八十七さいです。ひいおばあちゃんは、わたしがあかちゃんころ、よくだっこしてくれていたそうです。

「ひいおばあちゃんがだっこすると、ふしぎとなきやんじゃうんだよね。」

と、おかあさんが話すことがあります。

ひいおばあちゃんは、やさいをつくったり、すいかをつくったりすることがじょうずで、おにわでたくさんつくっていました。夏になると、ひいおばあちゃんがつくってくれたすいかをおにわで食べたことをおぼえています。わたしが「おいしい。」というと、「よかった。たくさんたべな。」とえがおでいってくれました。

ひいおばあちゃん目の、なん年か前からすこしずつ見えなくなってきました。りよくないしょうという目のびょうきだと、おかあさんがおしえてくれました。一年前から、ぜんぜん見えなくなっていました。トイレに行くとき、かべやものをさわりながら行きます。たまに、頭をドアにぶつけてしまうことがあります。ごはんを食べるときも、こぼしてしまうことがあります。まえみたいにやさいをつくらなくなったので、そとに出ることもすくなくなりました。いえの中で一日中ラジオをきいて、元気がなくなりました。そして、わたしのかおをもう一ど見たいな、となんどもいっていました。

わたしは、目をつぶって歩いたことがあります。一人ぼっちになったみたいで、こわくてすぐに目をあけてしまいました。ひいおばあちゃんは、いつもこんなかんじなんだと思うと、なにかてつだってあげたい気持ちになりました。

ひいおばあちゃんがげんきになるために考えたことは、音読のしゅくだいをきいてもらうことです。ひいおばあちゃんはものがたりがすきで、よみおわるとうれしそうなかおではくしゅしてくれます。たまに、かんそうもいってくれます。ひいおばあちゃんがすきなお話のときは、二かいよむこともあります。そのほかに、ごはんをはこんでメニューを教えてあげます。おはしを手にわたして、おちゃわんを手にのせてあげます。トイレに行くときは、手をひいてあげたりします。だんさがあるところは、こえをかけたり、ゆっくり歩いたりして、ころばないように気をつけます。

わたしは、ひいおばあちゃんがにっこりわらってくれるかおが大すきです。わたしがなにかおてつだいをすると、ひいおばあちゃんはとつてもうれしそうに、にっこりわらってくれます。ひいおばあちゃん目のかわりになれるようわたしにできることをもっと見つけたいと思います。そして、ひいおばあちゃん目の見えるようになるまで、ずっとつづけていきたいです。